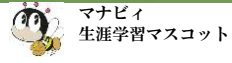




「こども本の森 熊本」へようこそ



館内を見学する受講生の皆さん (美しい木組みの天井と壁一面に色とりどりの絵本が並ぶ異空間)

講師 熊本県立図書館 副館長兼 こども本の森 熊本館長 飯塚 暁子氏

「こども本の森 熊本」(令和6年4月8日開館。世界的な建築家・安藤忠雄氏の奇贈による)

➡ 水前寺江津湖公園内の美しい水辺近く、県立図書館横に誕生した熊本の未来を担うこどもたちのための図書館(本の貸出はなく、館内で読むシステム)。「こども本の森」は安藤忠雄氏が本の楽しさ・豊かさを知ってもらおうと始めたプロジェクトで中之島(大阪府)/遠野(岩手県)/神戸(兵庫県)に続き熊本は全国で4か所目。



〈県立図書館玄関前のサインボード〉



〈こども本の森 熊本外観(左側)〉 (右側建物は県立図書館)

「こども本の森 熊本」ロゴマーク(熊本出身の放送作家 小山薫堂氏らが制作・監修)

➡ 入り口で出迎えてくれる黄色い3匹の蝶々。Bookの「B」のアルファベットが本の形をした蝶となり羽ばたいているさまをイメージしデザイン。3匹の蝶が集まって漢字「森」を表現。蝶は生命/成長の象徴とも言われ、こどもたちの創造力が読書を通じて羽ばたいてほしいとの願いが込められている。



〈ロゴマーク〉



図書館入口

さあ、いざ館内へ!

i) 建物は緩やかな曲線を描くコンクリート製の2階建。いざ館内に入ると一変! 両側の広い壁全面には色とりどりの絵本(約10,000冊)などが張り巡らされ、天井全体は美しい木組みの幾何学模様(熊本県産のヒノキを使用し職人たちの手でひとつひとつ組み上げられた)をなし、ヒノキの香り、やさしい照明などが相まって、芸術性の高い非日常的な空間になっている。「曲線」「光」「緑」の3つがこの図書館の建築設計のコンセプト。大人も入館でき、心なごむ空間で読書も楽しめる。

- ii) 本は、10のテーマごとに分類され、並べられている。
 - ①うごく=のりもの/いきもの/スポーツなど“うごく”ものに関連する本
 - ②大地=森/水など“自然と生きる”ことに関連する本
 - ③はじめて=ことばあそびなど“はじめて”本に触れることに関連する本
 - ④すきななあに=恐竜/スポーツなど、こどもたちの“すき”を広げる本
 - ⑤みつめる=生きることに関連する本
 - ⑥みてよんで=ロングセラーなどぜひ読んでほしい本
 - ⑦はばだけ=世界で活躍する人/宇宙など視野を広げられる本
 - ⑧これまでこれから=建物/服など“これまで”と“これから”に関連する本
 - ⑨もっと! くまもと=くまもとの“ひと・もの・こと”に関連する本
 - ⑩こっだけ=⑨にオリジナリティを加味した本



iii) 「こども本の森」は“こどもたちの「自由」を大切にしたい”という思いでつくられた図書館。読む場所も自由で、天気が良いれば本(1冊)を屋外に持ち出し、公園など自然の中で読書できる。

①こども目線に合わせた窓、秘密基地のようなスペースなど、こどもたちがそれぞれの感性で楽しめる工夫があちこちに施されている。



②緩やかな曲線を描く階段(吹き抜けになっている)を上がって、いよいよ、2階へ。



「こども本の森 熊本」(水前寺公園前バス停下車徒歩5分)

住所: 熊本県熊本市中央区出水2丁目5-1

開館時間: 午前9時30分~午後5時まで

休館日: 毎週火曜日、毎月最終金曜日、特別整理期間、年末年始

入館料: 無料

利用時間: <第1回> 9:30-11:10(100分) <第2回> 11:30-13:10(100分) <第3回> 13:30-15:10(100分) <第4回> 15:30-17:00(90分)

※時間帯ごとの定員を50名(事前予約枠30名・予約なし枠20名)として完全入れ替え制による利用。詳細は「こども本の森 熊本」WEBサイト参照

取材を終えて: 今回は、緑濃い水前寺江津湖公園内に今春開館したばかりの「こども本の森 熊本」を現地学習。ヒノキの香り、柔らかい光、壁一面に並ぶ絵本など、久しぶりにわくわくする楽しい時間でした。有難うございました。(くまもと県民カレッジ広報ボランティア H.K作成)